

事業実績書

事業名		沼津兵学校の歴史を生かしたまちづくり事業
場所		沼津市 西条町 地内ほか
期間		平成30年4月1日 ~ 平成31年2月16日
	日程	実施項目・作業項目
事業内容	4~10月	<p>3本の柱(下記の①~③)となる事業全体について、調査・研究チームによる調整を行い、事業相互の関連性に留意した上で、それぞれの事業を効果的に推進するよう努めた。</p> <p>① 「沼津病院・駿東病院跡」記念碑の設置<補助対象外事業> 上半期に調査・研究チームで記念碑の意匠などを検討し、10月以降設置工事を進めて1月15日に完了した。その後、1月20日に除幕式を行い、記念碑を沼津市に寄付することができた。</p> <p>② 『沼津兵学校記念誌』の発行<まちづくりファンドの補助対象事業> 9・11月に「沼津まちなか歴史MAP」の見直しを行ない、これをもとにまちづくりの提案を検討したほか、画期的なマンガ「沼津兵学校物語」を作者と共に調査・取材の上、掲載することができた。その他の寄稿や講演録、資料編も充実し、記念誌にふさわしい内容になった。</p> <p>③ 「沼津兵学校創立150周年記念式典」の開催<文化振興課の補助対象事業> 明治史料館との連携により沼津兵学校関係者の子孫等130人に案内をした結果70人の参加があり、市内からも連合自治会の後援などにより、市民文化センター小ホールがほぼ満席の盛況となった。当日だけでも記念誌210冊の売り上げがあり、来賓等には約250冊を無料で配布した。</p>
	10~2月	
	4~2月	
	1月20日	
事業効果		<p>まちづくりファンドの補助対象事業である『沼津兵学校記念誌』は、当初計画の2倍の事業費、3倍のページ数となり、徳川宗家の参加によるインパクトが事業効果の拡大に結び付いたと考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●徳川宗家18代当主・徳川恒孝氏の揮毫による表紙題字のほか、「沼津病院・駿東病院跡」記念碑の題字市立第一小学校への墨書の3点を記念誌に掲載することができたため、記念誌の価値が高まった。 ●各種寄稿のテーマや内容が適切であり、講演録や資料編も記録に値する内容のものが揃った。 ●マンガ「沼津兵学校物語」は、鈴木清作氏の寄稿「杉田玄端をめぐる「よもやま話」」及び神山明久氏の「廃藩置県までの沼津病院とその時代」の内容とあいまって、杉田玄白以来の医学の歴史と沼津兵学校、沼津病院・駿東病院の歴史を分かり易く解説しており、予想以上の事業効果をもたらした。 ●表紙のデザインは伝統の「沼津垣」を用いたが、地域の独自性・特性が表現され、徳川恒孝氏の揮毫と調和した品格ある記念誌の「顔」とすることができた。
今後の活動予定		<ul style="list-style-type: none"> ●毎年6・12月に発行される徳川記念財団の会報を通じて、全国の会員などに対する『沼津兵学校記念誌』及び沼津兵学校顕彰に関する広報活動を行い、普及・販売促進を進める。 ●平成31年度下半期に沼津史談会が発行する「沼津ふるさと通信」第4号をマンガ「沼津兵学校物語」の特集号として発行し、市内の小中学校に副読本として提供することを検討する。 ●沼津史談会の市民公開講座「沼津ふるさと講座」年12回のうち、4回程度を沼津兵学校顕彰に関係する内容として、今回、記念式典に参加した子孫等の情報交流を進める。 ●そのためにも、沼津史談会恒例の首都圏方面へのバス旅行を沼津兵学校関係者の墓地訪問を中心とする「掃苔ツアー」として、会員等・子孫等の交流の機会として継続実施する。
自己評価		<p>今回の記念事業実施に当たっては、沼津兵学校の設置者・徳川宗家との連携が実現できたことが事業の意義を高めたと言える。その契機となったのは、平成29年7月の「沼津ふるさと講座」の講師として招いた岡崎市の歴史家・市橋章男氏との知遇であった。</p> <p>徳川家にゆかりが深い都市は、家康公の生地・岡崎市、出世城・浜松市、隠居の地・静岡市が代表的である。そうした都市は家康公との関係から城址を拠点とした観光などの「まちづくり」に活用しているのに対して、沼津市は徳川家の最後の時期に脚光を浴びた「沼津兵学校」の存在意義を再認識して、新たな「まちづくり」に生かすことを目標としていくべきである。</p> <p>そのためには、上記3都市とは異なる問題意識を持ち、沼津市民と今回参加の子孫等のコラボによる、独創的で実効性の高い「まちづくり活動」を進めていく必要があると考える。</p>